

## 第38回おひさまの会「絵本について語りましょう」の報告

平成27年11月21日

横浜市立緑園東小学校 図書室

講師 緑園東小学校 校長 副島 江理子先生  
同 図書館司書 藤森先生

おひさまの会が、絵本について取り上げるのは、平成21年会発足から数えて4回目でした。これまでも学校図書について造詣の深い副島校長先生にご指導いただき、過去、先生が赴任されていた小学校にもお邪魔致しました。

今回は、少し郊外にある緑園東小学校をお尋ねしました。図書館の設えなどの様子を見学し、具体的な利用法の説明もしていただきました。また、参加者が持参したお気に入りやおすすめの絵本についても紹介しあいました。それぞれの絵本への思い入れも合わせて語ろうという趣旨のもとで、この会が開かれました。

### 副島校長の話

読書の大切さ、必要性を強く感じたのは、外国語を母語とする児童や外国につながる児童たちに「読書力をつけたい」「自分の力で本を読む力をつけたい」「人生を読書によって豊かに」という思いがあったからです。

現在、国や市が図書館教育に力を入れてきて、平成28年度には全校に図書館司書が配置される予定です。

緑園東小学校では、「けがをなくそうプロジェクト」を展開しています。

平成25年着任時、けがの多い学校でした。今までやってきたことを全校的に結び付け、ざわついている心を「心がほっとする本」を取り入れることで学校経営の基盤をより一層しっかりしようと考えました。

「雨の日読み聞かせ」や「青空読み聞かせ」などを実施、今では無理なく学校生活に読書の習慣が繋がってきています。

高学年は、なかなか本を読みません。低学年のうちに多様な読書体験をさせたいと思っています。「ハリーポッター・・・」の存在は大きかったです。同じようなシリーズが出たので、高学年が読み物に興味をもったことは読まない傾向のあった一時期より効果があったと思います。

《聞かせてもらって、言語を体に入れる》

昔話を聞くことは大事なことです。沢山本を読んでもらったことのある子どもたちは、物語の形式が分かってきます。国語の授業などでのお話づくりでは、物語の形式を理解できます。読み聞かせの効果が、夜中に冒険に出かけるなどの

作話発想にみられます。いかに「小さいうちに体にお話をいれちゃう」ことが大事かを経験しました。

《読書の自立を図っていく》

子どもの年齢がいったって一時読書を離れるようなことがあっても、小さいときに身に着けた読書体験が、数年たってからよみがえることもあります。小学生のときに本をよく読んでいると、中学現国がよく理解できると思います。

「読書の力」は何でもできる力を生みます。発想しきれないような力をいずれ返してくれると思います。そのためにも、子どもたちが引き込まれるような図書館、図書館の入口をつくってほしいと思います。

《本の紹介》

○絵本の力 柳田 国男

○松井直のすすめる50の絵本

絵本は、その時その時の受け止め方がある。どの年代でも絵本から考えることが出来る。あまり年代は気にすることはない。易しすぎてもよい。テーマ性が大事。

絵本は挿絵が重要。絵本の不変性のガイドブック。

## 藤森司書教諭の話

「わくわく読書コーナー」をつくったり  
「読書サイコロ」をつくったりして読書に興味をもつようになっています。

上履きを脱いでソファーやカーペットの上でも読書できます。

図書室の半分近くはそういうスペースです。

新聞も何社か置いています。

「読書月間クロスワード」は低・中・高学年に分けて作っています。例えば「オオカミ王ロボの妻の名前は？」とか「くもの糸の作者は？」など学年にあった問題を手作りで作成しています。

図書委員は教室のそばまでワゴンを運んで貸し出しています。司書が赴任してから図書委員は人気の委員になっています。

「心のほっとする本の紹介」「本に帯をつける」「読書の木」など学習に継続して入り込みます。図書を使って授業をする際も協力します。

先生方も手探りながら図書館経営に協力、「〇〇先生文庫」など、教職員の本棚もできました



図書室は、昔は「電気が点いていない暗くて冷たいイメージ」でしたが、本校はいつ図書室に来てもしよいようにしています。授業中に本を持って歩いている子どもも日常よく見られます。

卒業したときに「小学校の図書館が面白かった」と思うようになってくれるとよいと思います。

☆「劇的に学校が変わった」との副島校長の言葉を付け加えます。子どもを図書に集中するスペースが、緑園東小では論理的に構築されているそうです。

---

当日は、参加者が自己紹介を兼ね、持参の絵本を紹介しあいました。秋の連休初日で、参加者こそ少なかったのですが、その分皆さんたっぷりと絵本に寄せる思いを語っていただきました。

○小学校で読み聞かせをしています。

『ツガルさん』は子育てのときに元気をもらいました。

『うえきばちです』(川端 誠)「地球を掘る」の作者です。本がひっくり返る本です。子どもたちをひきつける要素がある本です。元気が出る本なのでみんなに聞かせたいです。



○小学校で読み聞かせの会をしています。読書につながる読み聞かせを心がけています。

高学年向けの絵本『綱渡りの男』(小峰書店)ワールドトレードセンターでの話です。

『三つのなぞ』(トルストイ)

『檜の木の子守歌』

『オレゴンのたび』(セーラー出版)

○息子が子どものころ読んでいた本を「読んでちょうだい。」と孫が持ってきます。孫たちは何回も何回もリクエストしては、喜んで聞いています。絵本は、大事に読みつないでいくものだなと実感しています。